

Report レポート #01

（財）北海道開発協会平成21年度研究助成サマリー

札幌市内勤労者の生活実態に関する調査



平岡 祥孝 (ひらおか よしゆき)

札幌大谷大学短期大学部教授

1956年大阪市生まれ。85年北海道大学大学院農学研究科修士課程修了。九州大学博士（農学）。静修短期大学（現札幌国際大学短期大学部）、北海道武蔵女子短期大学勤務を経て、2009年より現職。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。北海道の社会資本整備についても関心を持ち、既存資源の有効的活用の視点から、札幌丘珠空港のリージョナルハブ化の推進と、高規格幹線道路のネットワーク化の実現を提言している。また、長年、女子学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論あるいは生涯学習などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍している。

はじめに

本研究の課題は、札幌市内の職場に勤務する勤労者に対して実施した生活実態に関するアンケート調査結果を分析することであった。筆者が研究代表者として北海道開発協会の研究助成を受けて、平成21年度に研究報告を提出した。共同研究者は森雅人（札幌国際大学教授）と千葉昭正（元札幌国際大学教授）の両氏である。小稿はその研究成果を簡潔に要約・整理したものである。

企業経営を取り巻く経済状況には大幅な改善は見られていない。また、地方自治体によっては財政逼迫^{ひっばく}の状況にある。もちろん札幌市においても例外ではない。勤労者にとっては、将来不安や生活不安が深刻化している。とりわけ非正規雇用の立場に置かれている勤労者の不安定な状況は、周知のとおりである。それらの不安が消費行動あるいは日常的な仕事や生活実感にどのような影響を与えているのであろうか。

従来、北海道の生活実態に関する調査対象は、主として正規雇用者であって、調査テーマは労働と余暇、勤務先への帰属意識、職業観、労務管理が中心であったように思われる。しかしながら、昨今の企業経営の実態を直視したとき、契約社員、嘱託社員、アルバイト社員、派遣社員等、雇用形態が非常に多様化している。言い換えれば、同一職場の雇用がモザイク化している。所得が異なるのであれば、当然消費支出や不安感、生活実感も異なるであろう。しかるに、そのモザイク化した職場で仕事を共にしている勤労者の生活実態は、明らかにされてきたとは言い難い。そのモザイク化した職場において組織的に一体感を保っていくことは、経営のきわめて重要な課題でもあろう。

したがって、本研究では、消費支出項目あるいは仕事や生活の不安感、および生活実感の分析を通して生活実態を解明することを目的としたうえで、日常生活における消費支出項目のアンケート調査を実施した。

1 データの特性と分析方法

データは、札幌商工会議所加盟企業、北海道経済同友会、北海道経営者協会に加盟する企業、および札幌市と北海道に勤務する正規雇用労働者・非正規雇用労働者を対象として、層化抽出法によって1,000人に調査票を配布した。このうち回答を得たのは591人である（N=59.1%）。このサンプルを「年齢」「性別」「雇用形態」「業種」「職種」「婚姻」「子供」「最終学歴」「あなたの昨年の年収」「配偶者の昨年の年収」「現在お住まいの住居」の属性別に分析を行った。

生活全般に関する質問のうち、「あなたのご家庭の昨年1年間の消費金額」については、多い=4、やや多い=3、やや少ない=2、少ない=1を用いた。以下、「あなたは仕事に対して、どの程度の不安、悩み、ストレスを感じていますか」及び「あなたは生活に対して、どの程度の不安、悩み、ストレスを感じていますか」については、強く感じる=4、ある程度感じる=3、あまり感じない=2、まったく感じない=1、「仕事や生活の実感」については、強く思う=4、ある程度思う=3、あまり思わない=2、まったく思わない=1という4つの評価で回答を求めた。

回答者の中心は男性の正社員であったが、パート・アルバイト雇用と契約社員からも100人以上回答を得ることができた。業種別にみるとサービス業と公務員が多く、次いで金融業である。職種では事務職、次いで管理職と専門職・技術職であり、回答者は企業・役所の中で責任が重い立場の人が多くと思われる。婚姻を見ると、既婚者が多くなっている。学歴が高いのも特徴で、圧倒的に大学卒である。年収も相対的に高めで、300~600万円（100万円単位）であった。男性の回答者が中心であることから、配偶者の年収が無と回答した者は専業主婦家庭が多いと推察できる。住居別では持家派と賃貸派に分かれる。子どもの数では無が多く、有と回答した者の子どもの数は2人が多い。

昨年1年間の消費金額と生活や仕事に関する不安・悩み・ストレス、仕事や生活の実感を分析するにあたって、属性とクロス集計して検定（カイ二乗検定）を行った。さらに、仕事や生活の実感を目的変数とし、消費金額と生活や仕事に関する不安・悩み・ストレスを説明変数とする統計学的な分析（重回帰分析）を行った。小稿では「雇用形態」と「あなたの昨年の年収」に注目したい（表）。

表 標本の特性に関する統計量

		雇用形態							あなたの年収									
		その他	パート・アルバイト	会社役員	契約社員	正社員	派遣社員	~100万円	~200万円	~300万円	~400万円	~500万円	~600万円	~700万円	~800万円	~900万円	~1000万円	1000万円~
年齢	総計	15	30	9	73	452	12	19	63	83	70	83	78	62	55	27	33	18
	平均	3	6	1.8	14.6	90.4	2.4	3.8	12.6	18.99473611	11.81101181	17.7707625	15.91540135	13.72224471	12.38951169	5.504543578	8.706319544	4.159326869
	標準偏差	1.58113883	4.527692569	2.167948339	8.502940668	62.32415262	3.577708764	3.346640106	10.13903348	18.99473611	11.81101181	17.7707625	15.91540135	13.72224471	12.38951169	5.504543578	8.706319544	4.159326869
雇用形態	総計							19	63	83	70	83	78	62	55	27	33	18
	平均							5.428571429	18	23.71428571	20	23.71428571	22.28571429	17.71428571	15.71428571	7.714285714	11	5.142857143
	標準偏差							6.704653679	22.20360331	31.17004056	28.72861524	39.16509622	36.7229006	28.92354454	26.49977538	13.17465098	16.66133248	6.914443131
業種	総計	15	30	9	73	452	12	19	63	83	70	83	78	62	55	27	33	18
	平均	1.071428571	2.142857143	0.642857143	5.214285714	32.28571429	0.857142857	1.357142857	4.5	5.928571429	5	5.928571429	5.571428571	4.428571429	3.928571429	1.928571429	2.357142857	1.285714286
	標準偏差	1.384768001	2.957575485	0.928782732	8.229202891	40.25004266	1.292412345	1.94569121	6.073270567	8.398330741	4.624350266	8.052369797	8.500807977	6.676183683	6.557019559	3.583386574	4.430786401	2.163635524
職種	総計	15	30	9	73	452	12	19	63	83	70	83	78	62	55	27	33	18
	平均	3	6	1.8	14.6	90.4	2.4	3.8	12.6	16.6	14	16.6	15.6	12.4	11	5.4	6.6	3.6
	標準偏差	2.549509757	4.527692569	3.492849839	16.2265215	55.21593973	3.361547263	3.768288736	12.21883792	15.58204094	9.327379053	10.87658034	13.39029499	8.590692638	10.07472084	8.792041856	13.66747965	6.949820142
婚姻	総計	15	30	9	73	452	12	19	63	83	70	83	78	62	55	27	33	18
	平均	7.5	15	4.5	36.5	226	6	9.5	31.5	41.5	35	41.5	39	31	27.5	13.5	16.5	9
	標準偏差	2.121320344	2.828427125	4.949747468	14.8492424	121.6223664	0	2.121320344	10.60660172	33.23401872	0	20.50609665	26.87005769	29.69848481	33.23401872	16.26345597	21.92031022	9.899494937
最終学歴	総計	15	30	9	73	452	12	19	63	83	70	83	78	62	55	27	33	18
	平均	2.5	5	1.8	12.16666667	75.33333333	2	3.166666667	10.5	13.83333333	11.66666667	13.83333333	13	10.33333333	9.166666667	4.5	5.5	3
	標準偏差	2.167948339	4	1.923538406	10.24532414	103.4517601	1.264911064	2.714160398	8.24014563	14.41411345	14.33410851	16.216247	16.76901905	15.30577233	14.56594201	6.978538529	10.15381702	5.403702434
あなたの年収	総計	15	30	9	73	452	12	19	63	83	70	83	78	62	55	27	33	18
	平均	1.363636364	2.727272727	0.818181818	6.636363636	41.09090909	1.090909091	1.727272727	5.727272727	7.545454545	6.363636364	7.545454545	7.090909091	5.636363636	5	2.454545455	3	1.636363636
	標準偏差	1.629277587	4.496463257	1.53741223	10.23008042	25.51648309	1.921173884											
配偶者の年収	総計	15	30	9	73	452	12	19	63	83	70	83	78	62	55	27	33	18
	平均	1.363636364	2.727272727	0.818181818	6.636363636	41.09090909	1.090909091	1.727272727	5.727272727	7.545454545	6.363636364	7.545454545	7.090909091	5.636363636	5	2.454545455	3	1.636363636
	標準偏差	3.264130122	4.173509533	1.53741223	17.39696943	88.10045919	2.071450963	2.649185123	13.74111283	20.15620816	14.89478249	13.7503719	14.70003092	12.27414133	11.17139204	5.698484647	5.639148872	3.009077177
住居	総計	15	30	9	73	452	12	19	63	83	70	83	78	62	55	27	33	18
	平均	3.75	7.5	2.25	18.25	113	3	4.75	15.75	20.75	17.5	20.75	19.5	15.5	13.75	6.75	8.25	4.5
	標準偏差	3.403429643	6.454972244	2.21755783	12.68529332	98.1325634	2.160246899	4.031128874	11.70113955	18.4639288	12.50333289	19.9728983	19.73997636	16.663333	18.42778699	11.52894907	12.52663828	5.916079783
子どもの数	総計	15	30	9	73	452	12	19	63	83	70	83	78	62	55	27	33	18
	平均	2.5	5	1.5	12.16666667	75.33333333	2	3.166666667	10.5	13.83333333	11.66666667	13.83333333	13	10.33333333	9.166666667	4.5	5.5	3
	標準偏差	3.33166625	5.865151319	1.224744871	18.97805751	82.02357385	4.427188724	4.020779361	18.36028322	30.50519082	17.82881563	17.64558491	13.79855065	8.687155269	12.00694244	5.08920426	7.176350047	2.683281573

2 クロス集計の結果

昨年1年間の消費金額について検定を行った（有意水準 $P<0.05$ でカイ二乗検定、上側確率、以下同じ）。食費、住居・光熱、家電、ファッション、保健医療、交通・通信、教育、教養娯楽・レジャー・スポーツの中で、すべての属性と関連するのは教育である。次にファッションと教育、家電、保健医療、教養娯楽・レジャー・スポーツである。また、交通・通信は婚姻および住居と関連がある。

一方、属性からみて最も多くの消費項目と関連があると判定されたのは住居である。持家、賃貸、親と同居といった居住のあり方が、食費以外の消費金額に影響を与えている。性別や既婚・未婚の違いによる消費金額の差も大きい。逆に回答者の最終学歴や配偶者の年収は教育とは関連があるものの、その他の消費項目とはさほど関係がない。

仕事に関する不安・悩み・ストレスの評価は、評価項目別には雇用の安定性が配偶者の年収と年齢以外の属性との関連性を有している。また、回答者自身の年収が仕事の不安・悩み・ストレスの最も大きな要因になっている。

生活に関する不安・悩み・ストレスでは、家事・育児、友人関係、近所づきあいの評価項目が多くの属性との関連性が強い。属性別には、正規・非正規といった雇用形態や年齢、住居の項目が生活する上での不安・悩み・ストレスになっている。

仕事や生活の実感では、職場での自分の立場は公平である、生活に必要な物がそろっているという評価項目が、8つの属性との関連性を有している。また、業種によって仕事や生活の実感が異なる結果になっている。逆に配偶者の年収は、仕事や生活の実感とは無関係である。子どもの有無についても、生活に必要な物がそろっている以外の項目との関連性は弱い。

3 仕事や生活の不安・悩み・ストレスと消費金額

仕事や生活の実感の相関分析では、消費金額と仕事および生活の不安・悩み・ストレスの評価項目との相関係数を求め、無相関の検定を行った（棄却域=3.50）。消費金額については、健康と保健医療の他に、生活のゆとりや安定と、教養娯楽・レジャー・スポーツとの相関が挙げられる。

仕事に関する不安・悩み・ストレスと相関のある項目は多いが、職場の人間関係は仕事や生活の実感のすべてと関係がある。特に、職場内での立場との相関が強い。また、賃金と雇用の安定性は、生活のゆとりや安定性、職場での立場の公平性、生活必需品の充足度に影響を与えている。

生活に関する不安・悩み・ストレスについては、居住が仕事や生活の実感に関するすべての項目と関連している。相関の強さでは、生活のゆとりと貯蓄額の相関が強く、生活のゆとりや安定と税負担の関係も強い。

4 仕事や生活の実感に関する分析

分散分析表の有意 $F<0.05$ では、職場での自分の立場は公平である（目的変数）と消費項目（説明変数）以外は重回帰式が成り立っている。

まず消費金額についてみると、健康と保健医療、生活の安定と教養娯楽・レジャー・スポーツの有意差が大きい。家電や交通・通信は仕事や生活の実感のいずれの項目とも有意差は見られない。

次に仕事の不安・悩み・ストレスについては、生活のゆとりと賃金が最も有意差が大きい。生活の安定と雇用及び賃金、生活の楽しさと職場の人間関係、職場での立場の公平性と職場の人間関係及び雇用の安定性、生活必需品と通勤の利便性の有意差が大きい。仕事の量・質では、生活のゆとり以外との有意差はみられない。

生活の不安・悩み・ストレスについては、生活のゆとりと貯蓄額の有意差が大きい。また、生活の安定や楽しさについては税負担及び貯蓄額、生活必需品の充

足度については住居との有意差が大きい。近所づきあいは生活実感のいずれの項目とも有意差が見られない。

5 年収及び雇用形態の違いによる消費傾向および仕事と生活への不安感

回答者の昨年1年間の年収（100万円単位）と雇用形態について検定を行った（有意水準 $P < 0.05$ でカイ二乗検定）。消費金額については、食費、家電、ファッション、保健医療、教育について有意差があり、特に教育との関連性が強い。高年収層ほど教育にかける費用が多いことに加えて、200万円以下の層も教育費がかかったと回答している（図1）。ファッションでは300万円を境に消費金額に差がある（図2）。

仕事の不安・悩み・ストレスについては、すべての項目で年齢との関わりがあるが、職場の人間関係や賃金の問題が大きい。賃金については、特に年収200万円以下の層が強い不安感を持っていると思われる（図3）。また、生活に関する不安・悩み・ストレスでは、友人関係や近所づきあいといった対人関係や健康保険・年金、貯蓄、居住空間との関連性がある。

雇用形態でみると、消費については食費、家電、ファッション、教育、教養娯楽・レジャー・スポーツとの関連性がある。仕事や生活の不安感については、職場の人間関係、仕事の量・質、雇用の安定性、賃金、老後の生活、子どもの教育、家事・育児、友人関係、税負担、健康保険・年金、貯蓄額、介護といった項目で関連性がある。特に雇用の安定性と賃金、貯蓄額等において正規雇用と非正規雇用との差が顕著である（図4、図5、図6）。

図1 年収の違いによる教育費の差

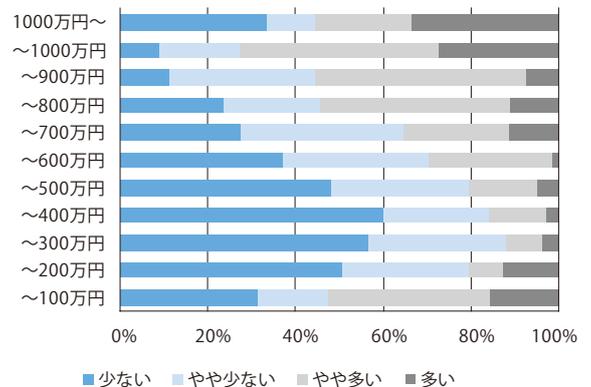


図2 年収の違いによるファッションの消費金額の差

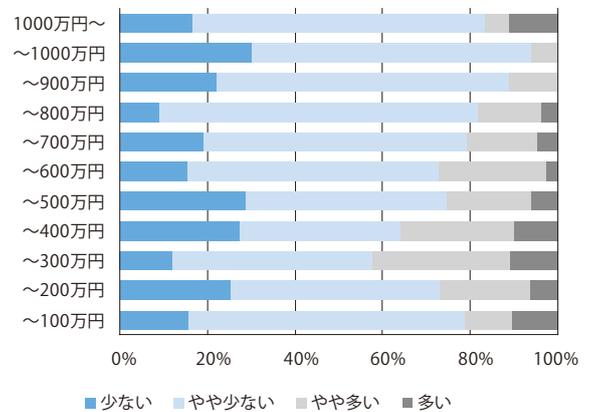


図3 年収の違いによる賃金への不安・悩み・ストレスの差

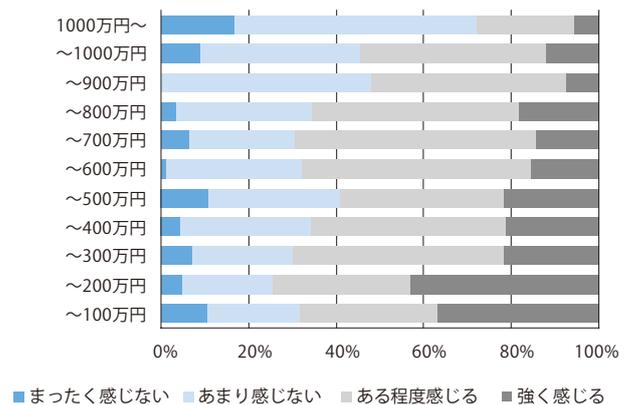


図4 雇用形態の違いによる雇用の安定性の差

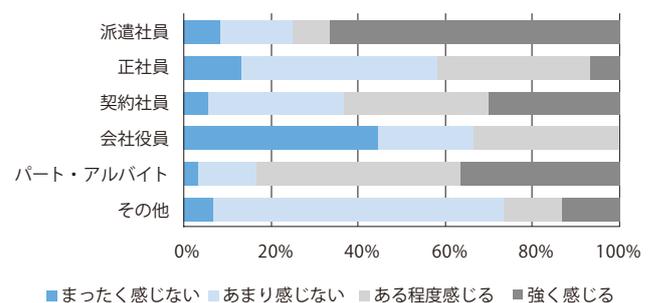


図5 雇用形態の違いによる賃金の差

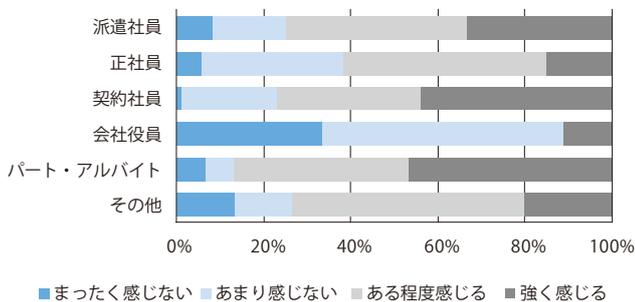
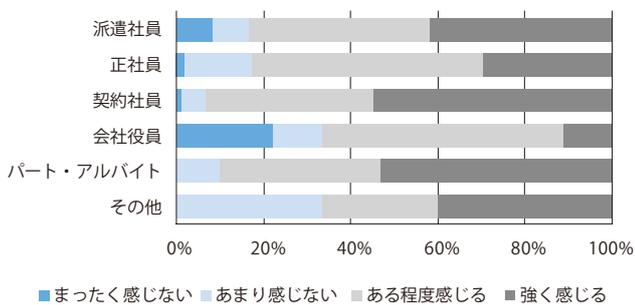


図6 雇用形態の違いによる貯蓄額の差



おわりに

本研究では、札幌市内の職場で働く勤労者を対象とした調査を実施し、属性別に消費金額や生活及び仕事の不安・悩み・ストレスについて分析するとともに、これらの評価項目が生活実感に与える影響について分析した。その結果、明らかになった点は次のとおりである。

- ① 昨年1年間の消費金額については、教育費の支出が多く（または多いと考えており）、交通・通信についてはあまり消費していない（または消費したとは考えていない）。ただし、相関分析の結果を踏まえるならば、教育と生活実感との相関は強くない。
- ② 仕事と生活の不安・悩み・ストレスについて両者を比較すると、仕事の場合は性別、雇用形態別、業種別によって雇用の安定性に対する違いが顕著であり、雇用形態の違い（正規・非正規等）は賃金に対する不安・悩み・ストレスに影響していると推察できる。相関分析の結果が示唆するように、職場での

自分の立場が公平ではないという思いが仕事の実感にも現れていると考えられる。

生活の場合は、年齢、子どもの有無、婚姻による影響が大きい。その他、性別と子どもの教育、雇用形態と貯蓄額、配偶者の年収と家事・育児、住居や介護といった項目について、不安・悩み・ストレスが顕著である。その一方で、相関分析の結果からは、家事・育児や子どもの教育が直接的に生活実感に関連していない。むしろ生活必需品の充足との相関が強い。

- ③ 仕事や生活の実感については、雇用形態や業種の違いが強い影響を与えている。しかし、配偶者の年収は生活実感とは無関係と思われる。
- ④ 統計学的分析の結果から、生活にゆとりがあるという項目に強い影響を与えている原因としては、仕事の不安・悩み・ストレスでは賃金であり、生活の不安・悩み・ストレスでは貯蓄額である。生活の安定性は、雇用の安定性、賃金、税負担、貯蓄額、教養娯楽・レジャー・スポーツに強い影響を受けている。生活の楽しさは税負担、貯蓄額から、職場における自分の立場の公平性については職場の人間関係から、自分の健康については仕事上は職場の人間関係から、そして生活上は自身の健康から強い影響を受けている。生活に必要な物がそろっているかという設問に対しては、仕事上で通勤の利便性が指摘された。
- ⑤ 年収差による消費金額は、教育やファッションに消費した金額に示されるように、年収200～300万円を境として、教育費の場合は低所得者層でも高負担であり、ファッションの場合は当該年収を境に所得が高くても低くても消費する金額は低い。また、賃金が低ければ仕事や生活に対する不安感が強くなるのは当然であるが、それは友人関係や近所づきあいにまで影響している。雇用形態の違いによる不安感では、雇用の安定性や賃金、貯蓄額といった項目で正規雇用と非正規雇用の格差が大きい。